



学校教育目標 『心豊かでたくましい実践力のある生徒を育てる』

令和7年度 第3学期の『始業式』にあたり・・・(校長として)

(1)『第24回東海地区新人テニス大会〔女子団体の部〕(12月21日)』に三重県大会を第4位で出場を決めた『大池中学校女子テニス部』。大会第2シード校と対戦し、1回戦惜敗でしたが東海大会出場までの過程が大切です。東海大会出場、あらためておめでとう！よく頑張ったね！

(2)『思(おもう)』、『笑(わらう)』という漢字一文字に込められた想いから

(3)『継続(けいぞく)と深化(しんか)』という考え方について。

令和7年度のまとめとして、そして令和8年度につなぐことを目的として。「仲間と関わり合う」ことを通して一人ひとりが成長を続け、自分と仲間・クラス・学年としての成長を確かめ、新しい学年に向けて大池中学校みんなで、今を精一杯に頑張ろう！そして、大池中学校のみなさんの強みである「人を思いやる優しい気持ち」を大切にして、3学期も継続して保護者の皆さまと地域の皆さまに支えられながら、ともに子どもたちの成長をバックアップしていきたいと思います。

(1)「夏の中体連東海大会団体戦出場」に続き、女子テニス部が東海大会女子団体の部で出場をし大健闘したことをみなさんにお伝えいたします。日々の継続した積み重ねを体現してきたみなさんに拍手！



12月のホームページでも詳細はお伝えしましたが、12月21日(日)に静岡県静岡市にて開催された第24回東海地区新人テニス大会団体の部に大池中学校女子テニス部が三重県を代表し出場をしました。東海地区4県の大会を勝ち上がった各県代表の20校が全国大会の出場を目指しました。

『コツコツとした、継続した取り組みの成果として・・・』

三重県を代表して、大池中学校を代表して、東海大会の舞台を楽しんで貴重な経験を積むことができた2年生を中心とした女子テニス部のみなさん。テニススクールと兼ねて部活動で頑張っている皆さんも、学校部活動のみで頑張っている皆さんも一緒にONE TEAMとして頑張った大会。残念ながら1回戦惜敗でしたが、1回戦に出場をした選手も、交流

戦に出場した選手もこの東海大会という舞台に立っていることが素晴らしいことだと思います。この経験をこれからの部活動に活かし、この経験をしっかりと後輩にも伝えてほしいと思います。Fight! テニス部!

(2)『思(おもう)』という漢字一文字に込められた想いについて

『笑(わらう)』という漢字一文字に込められた想いについて

新年にあたって思うこと



【令和7年大筆書「思」】



【令和8年大筆書「笑」】

『人が人を「思う」1年へ・・・そして「笑顔」で過ごせる1年へ・・・3学期へ』

和歌山県世界遺産の「熊野本宮大社(くまのほんぐうたいしゃ)」の宮司(ぐうじ)さんが、令和8年への願いを込めた大筆書から(約3m四方の大きさ)。そして、前年の令和7年の今年の一文字も一緒に記し、その言葉の意味もお伝えします。令和6年ノーベル平和賞を受賞した「日本原水爆被害者団体協議会(被団協)」の授賞式の報道を見た宮司さんが、令和7年は「思」に決めたそうです。『戦争・紛争の絶えない殺伐(さつぱつ)とした世の中。家族や友人、仲間など大切な方への思いとか、人が人を思う優しさや思いやりは、平和につながる。必ず全世界に平和が訪れることを信じて・・・。日本原水爆被害者団体協議会(被団協)のノーベル平和賞授賞からあらためて、国や人種が違っても、相手を思う気持ちが平和につながっていくと思う』。宮司さんが「思」の1文字を祈念し記しました。また、同じ宮司さんは、令和7年の「思」に続き、令和8年今年「笑」に決めました。『昨年に続き、今でも戦争・紛争そして災害が世界の各地で起こっているが、大変なときにも「笑顔」を見せること

で、まわりの人々に安心感や勇気を与えることができる。今年は午（うま）年。着実に進む中にも「笑顔」を忘れないように過ごしてほしい。わたしも難しい顔をすることなく、にこやかに過ごしたい。』との思い。大池中学校では1学期、2学期と積み重ねてきた『関わること』『仲間を大切にすること』を継続しながら、周りの人たちのしんどさや辛さなどに気づける人に、そして、大池中学校の子どもたちみんなが持っているあたたかさや優しさを、人が人を思う心として大切にしていきたい。そして生徒も先生も笑顔で関わることを目指したいと思います。継続と深化を続けることができる大池中学校の子どもたちであってほしいと思います。

(3)『継続的な努力と深化と改善によって、自分の目標や達成したいことが実現する3学期へ。』

『継続（けいぞく）と深化（しんか）』という考え方について

3学期の始業式で「校長から」全校生徒のみなさんに伝えさせてもらった言葉として

- ① **深化とは**・・・「レベルアップ 掘り下げること 追及する」などのことをいいます。単に物事を変化させることなく、より良い方向へと変化させること。また継続的な努力と改善によって自分自身の目標や達成したいことを実現させることをいう。

- ② **継続することによって**・・・

校長として、来年度の「学校教育ビジョン」の一つとして『粘り強くやり切る生徒』という言葉を考えています。よく、こんな言葉を耳にします。「ぼくは、わたしは時間がかかるようなめんどくさいことは嫌い！」とか、「うちの子は、苦手なことだと、すぐにあきらめてしまう」「なかなか我慢することができない」など・・・。

「持続力（粘り強くやり切る力）」の低い子どもは、もともと持続力が低いとか、あきらめがちな性格だからとかではなく『粘り強くやり切った経験』や『最後まであきらめずに頑張った経験』が不足しているからだと考えられます。言い換えれば、『しんどくても我慢して取り組んだり、粘り強くやり切った経験』や『最後まであきらめずに頑張った経験』を積み重ねれば、「自分はやり切ることができる」と感じ、『持続力（粘り強くやり切る力）』がついていき、向上させることができますと思います。

『大池中学校は先輩の姿から学べる学校です』。3年生のみなさんは、中学校生活も残り38日を残す日数となります。まだまだできることはいっぱいあります。まだまだ成長できるみなさん。絶対に今の3年生のみなさんの姿なら絶対にできると思います。頑張る3年生のみなさんの姿は必ず後輩は見えています。3年生の良さをぜひ、後輩にしっかりとつないでほしいと思います。

1・2学期の授業においても、行事においても、部活動においても、このような経験を積み重ねることを大切にしてきました。この積み重ねてきたことを3学期も着実に継続していきたい。大池中学校のみなさんは、真面目に一生懸命に頑張れる生徒ばかりです。しかし「粘り強くやりきる力」は、今のみなさんには絶対に必要な力であり、自分を磨き高めていく上において必須な力だと思います。継続と進化を続ける1年に。

2学期11月、母校である大池中学校に2週間の日程で教育実習に取り組んでくれた本校の大切な卒業生「〇〇 〇〇」さんから教育実習のお礼のお手紙をいただいたので紹介します。

来年度からは、三重県の小学校教諭となる〇〇さん。大池中学校での生徒のみなさんや先生方との関わることを通して大きな学びを得ることができたこと、そしてこの経験を小学校教諭として「子どもたちに寄り添いながら成長を温かく支えられる教師を目指す」という強い思いを持つことができた先輩の姿。このお手紙の内容からも「先輩の姿から学べる」ものがあると思います。私たち教職員にも、「教員としての初心に戻るメッセージ」でもあると思います。



この度は、10日間に渡り、お忙しい中、教育実習の機会を頂き、誠にありがとうございました。実習期間中は、授業・学級経営・生徒理解のすべての場面で温かくご指導いただき心より感謝申し上げます。授業を見ていただきながら助言をいただいたことで、教材研究・発問・活動の意図など一つひとつに意味があることを深く理解することができました。また、生徒との関わりを通して、日々の積み重ねが信頼を育て、安心して学べる環境につながることを学びました。さらに、先生方がお互いに情報を共有し、協力しながら生徒を支えている姿をそばで見て、学校全体で子どもたちを育てていくということを強く感じました。先生同士の連携と支え合

いがあるからこそ、子どもたちは安心して学校生活を送ることができるのだと気づかされ、教師同士のつながりの重要性についても深い学びを得ることができました。今回の教育実習で得た貴重な経験や気づきを大切にし、今後の学修（がくしゅう）につなげてまいります。そして、将来、子どもたちに寄り添いながら、その成長を温かく支えられる教師になれるよう努力を続けていきます。

令和7年11月21日 〇〇〇大学教育学部 〇〇 〇〇